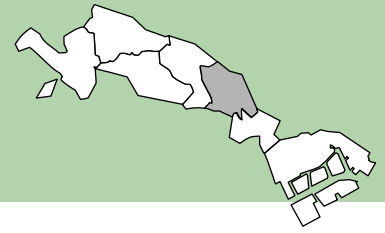


第1章

中原区地域福祉計画の策定 にあたって

1

中原区の特徴



(1) 区の概況

中原区は、本市のほぼ中央に位置しており、市内7区で最も人口の多い区です（平成22年9月1日時点）。

区域の大部分は多摩川に沿って平坦地が広がり、南西部の井田地区は豊かな緑の残る丘陵地が広がっています。また、北部の等々力緑地は市民ミュージアムや等々力アリーナ、川崎フロンターレのホームグラウンドとしても知られる等々力競技場が整備され、川崎市の文化、スポーツの拠点となっています。

かつては区の大部分が桃や梨を生産する農村地帯でしたが、大正15年に東京横浜電鉄（現在の東急東横線）が、また昭和10年に丸子橋が開通したことなどにより、東京、横浜、川崎南部地域のベッドタウンとして都市化が進んできました。併せて、商業地の形成や都心に本社機能を持つ企業の生産部門の進出により、現在のまちの骨格が形成されました。また、近年は産業構造の転換を先取りした企業による研究・開発部門などの都市型産業が武蔵小杉駅・武蔵中原駅・向河原駅を中心に立地しています。

都市基盤については、早くから道路・鉄道ともに東西方向と南北方向の幹線が整備され、東京・横浜・川崎のいずれの方向にもアクセスがよいことから、これらの幹線が交差する小杉地区を中心に業務施設や商業施設の集積が進み、公共施設や医療施設も数多く立地しています。また、武蔵小杉駅周辺の製造系事業所の移転に伴い、広域的な都市拠点の形成に向けた新しいまちづくりが進められています。横須賀線武蔵小杉駅が開業し、さらに利便性の高い魅力ある町へと変貌しています。これらのまちづくりの進展により30歳代から40歳代を中心とした大幅な人口の流入と集中がみられています。



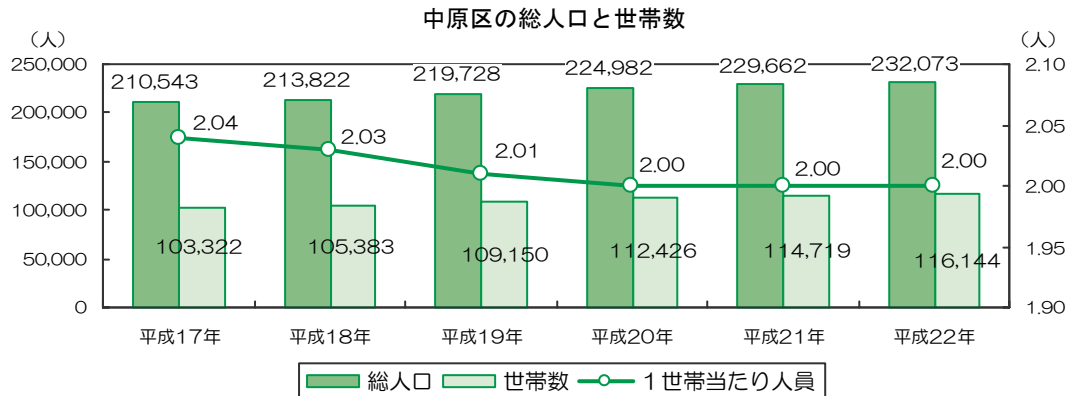
武蔵小杉駅周辺

(2) 区の現状

① 総人口と世帯数

中原区の人口は平成17年からの5年間で21,530人増加しています。市内で最も人口の多い区となっています。

人口増加に対し、1世帯当たりの世帯人員は7区で最も少なく2.00人となっており、家族を構成する世帯人員は減少傾向にあります。

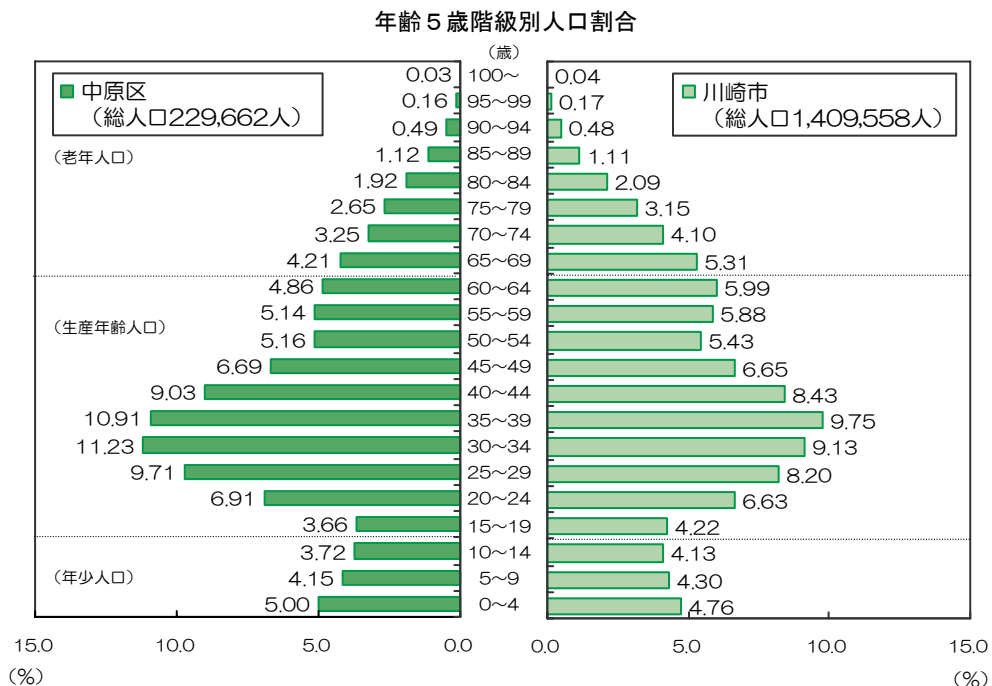


資料：川崎市の統計情報「川崎市の世帯数・人口」（各年10月1日現在・平成22年は9月1日現在）
平成17年の世帯数と人口は国勢調査結果。また、平成18年～平成22年は平成17年国勢調査を基数として、住民基本台帳及び外国人登録の増減を加減して算出したもの。

② 人口構成

● 年齢5歳階級別人口割合

年齢5歳階級別人口割合を市と比較すると、年少人口（0～14歳）では0～4歳までの割合が高く、生産年齢人口（15～64歳）では20歳代から40歳代前半の割合が高くなっています。

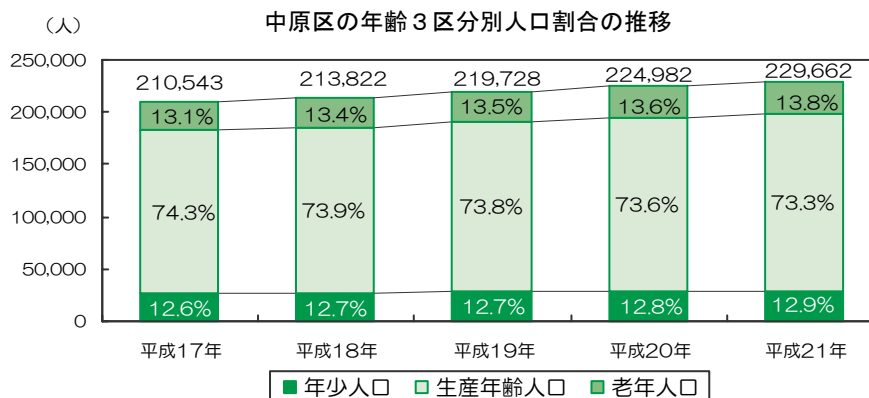
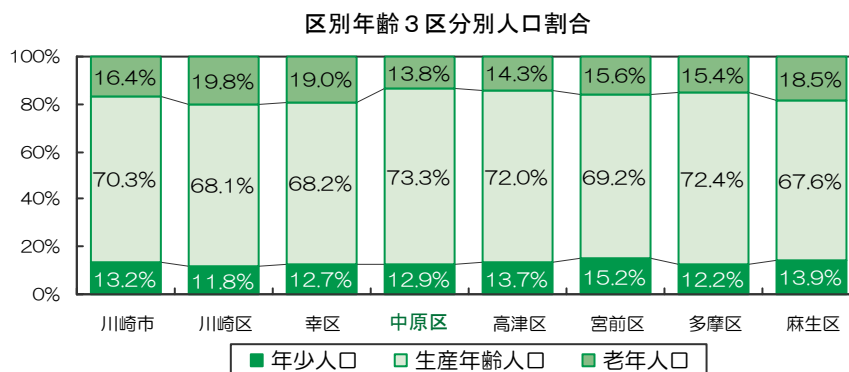


資料：川崎市年齢各歳別男女別人口（平成21年10月1日現在）

● 年齢3区分別人口割合の推移

年齢3区分別にみると、7区で生産年齢人口の割合が最も高く、また、老年人口（65歳以上）の割合は最も低くなっています。

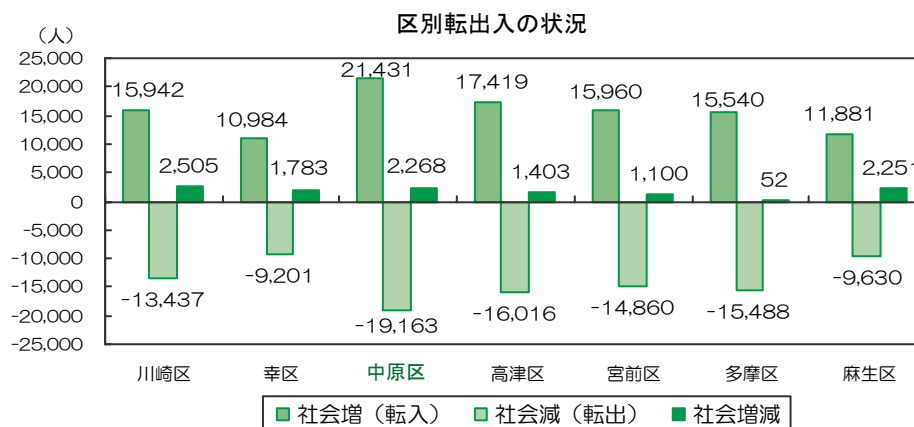
老年人口の割合は低いものの、高齢者数は年々増加傾向にあります。



資料：川崎市の統計情報「川崎市の年齢別人口」（各年10月1日現在）
平成17年の人口は国勢調査結果。また、平成18年～平成21年は平成17年国勢調査を基数として、住民基本台帳及び外国人登録の増減を加減して算出したもの。

③ 転出入の状況

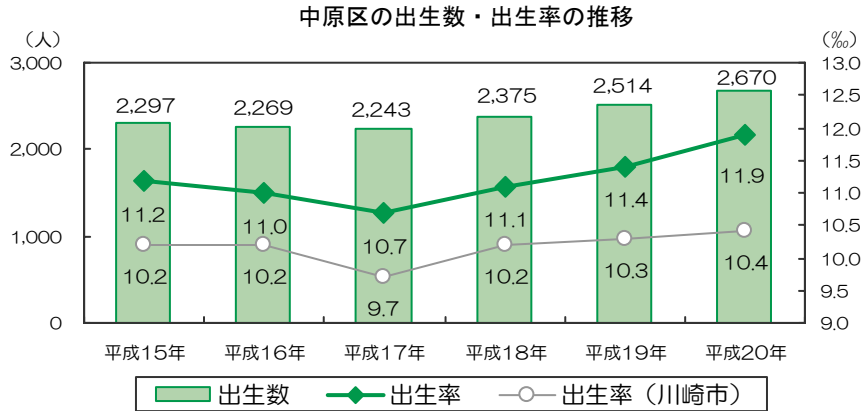
平成21年の転出入の状況をみると、7区すべてで転入が転出を上回っていますが、中原区は転出入ともに最も多くなっています。



資料：川崎市統計書（平成21年1月～12月の合計）
※社会増減…住民の社会増（転入）から社会減（転出）を差し引いた人数。

④ 出生数・出生率の推移

出生数、出生率は平成17年以降増加傾向にあります。今後も大型集合住宅等の建設により子育て世代の増加が見込まれるため、この傾向が続くことが予想されます。



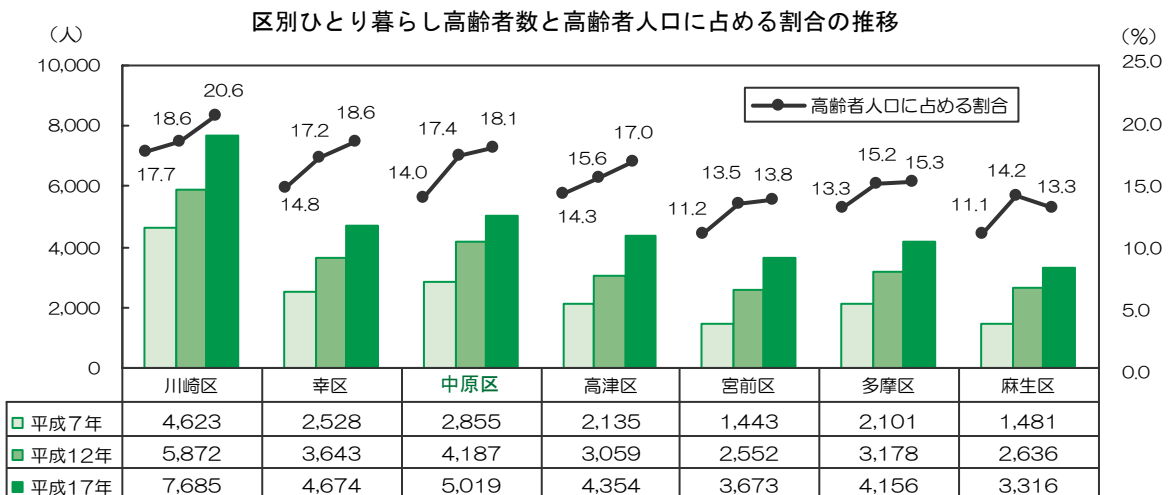
資料：神奈川県衛生統計年報
※‰ (パーミル) = 千分率

⑤ 高齢者の状況

● ひとり暮らし高齢者数と高齢者人口に占める割合の推移

中原区は、川崎区に次いでひとり暮らし高齢者が多くなっています。平成17年の国勢調査では高齢者の18.1%がひとり暮らしとなっており、約5人に1人はひとり暮らしとなります。

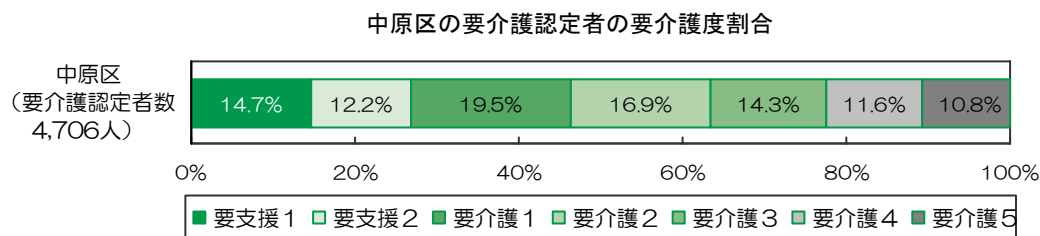
ひとり暮らし高齢者数の推移をみると、中原区は平成7年から2,164人増加し、高齢者人口に対する割合は4.1ポイント上昇しています。



資料：国勢調査

● 要介護認定者の要介護度割合

第1号被保険者のうち、要介護認定者数は平成21年3月で4,706人となっており、高齢者の約15%が介護認定を受けています。そのうちの約3割が要支援*1と要支援2です。

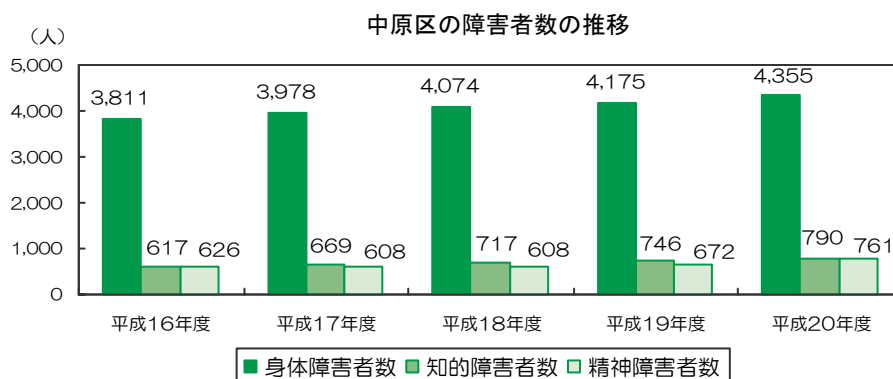


資料：川崎市統計書（平成21年3月）

※要支援…介護は必要ないが、6か月以上継続して家事や日常生活に支援が必要な状態のこと。要介護認定は7段階あり、要支援1が最も軽度な要介護度となる。

⑥ 障害者数（手帳所持者数）の推移

障害者数（手帳所持者数）は、平成20年度末で身体障害者数が4,355人、知的障害者数が790人、精神障害者数が761人となっており、いずれも増加傾向にあります。

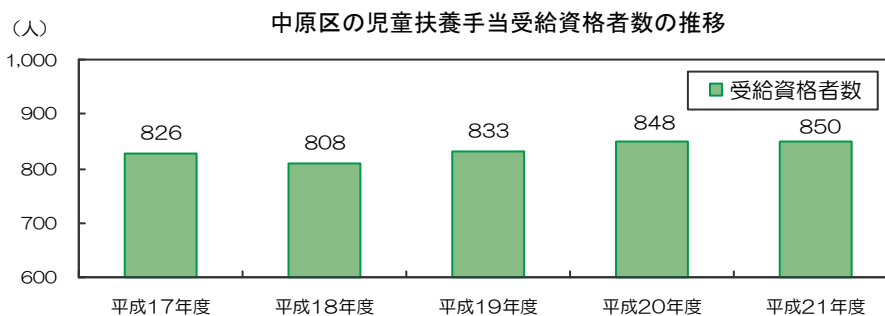


資料：身体障害者数・知的障害者数…川崎市統計書（各年度末）

精神障害者数…中原区保健福祉サービス課（各年度末）

⑦ 児童扶養手当受給資格者数の推移

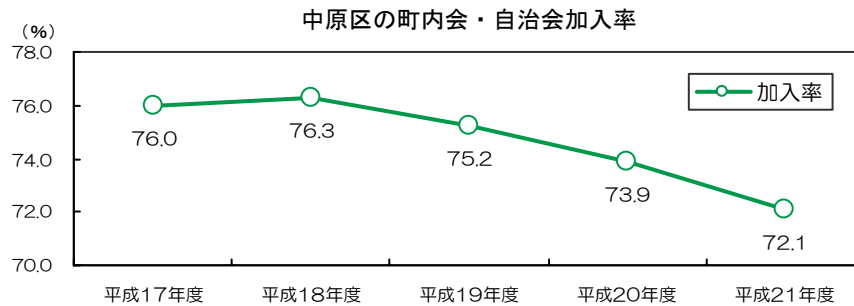
児童扶養手当受給資格者数は、平成18年度には一旦減少しましたが、その後は増加傾向にあります。



資料：川崎市健康福祉年報及び市民・こども局こども家庭課

⑧ 町内会・自治会加入率の推移

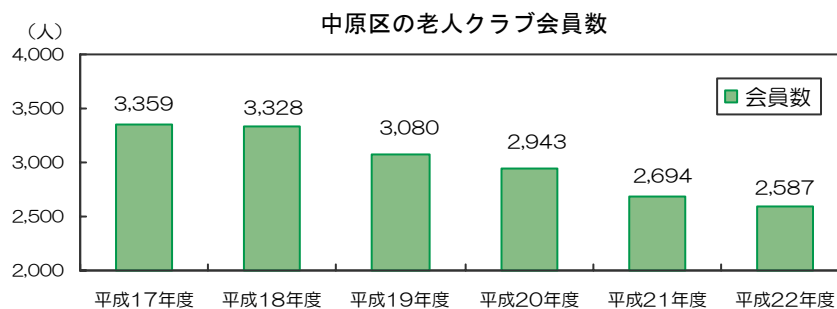
町内会・自治会の加入率は平成21年4月現在で72.1%となっており、平成18年度から4.2ポイント減少しています。



資料：川崎市統計書（各年度4月1日現在）

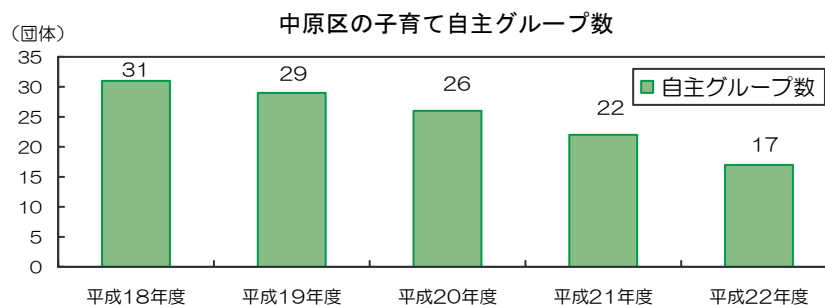
⑨ 老人クラブ会員数の推移

老人クラブの会員数は、減少傾向にあります。



資料：中原区高齢者支援課（各年度4月1日現在）

⑩ 子育て自主グループ数



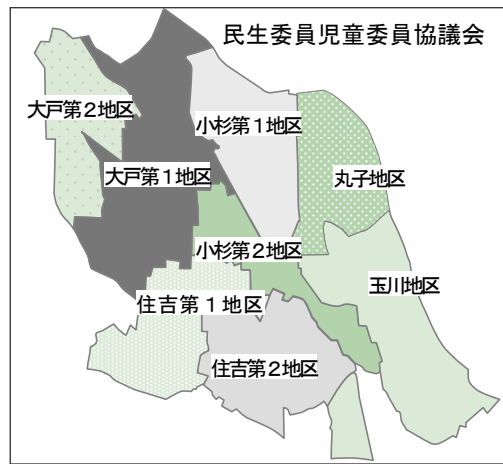
資料：中原区子ども支援室（各年度4月1日現在）

⑪ 中原区民交流センター ボランティア等登録数

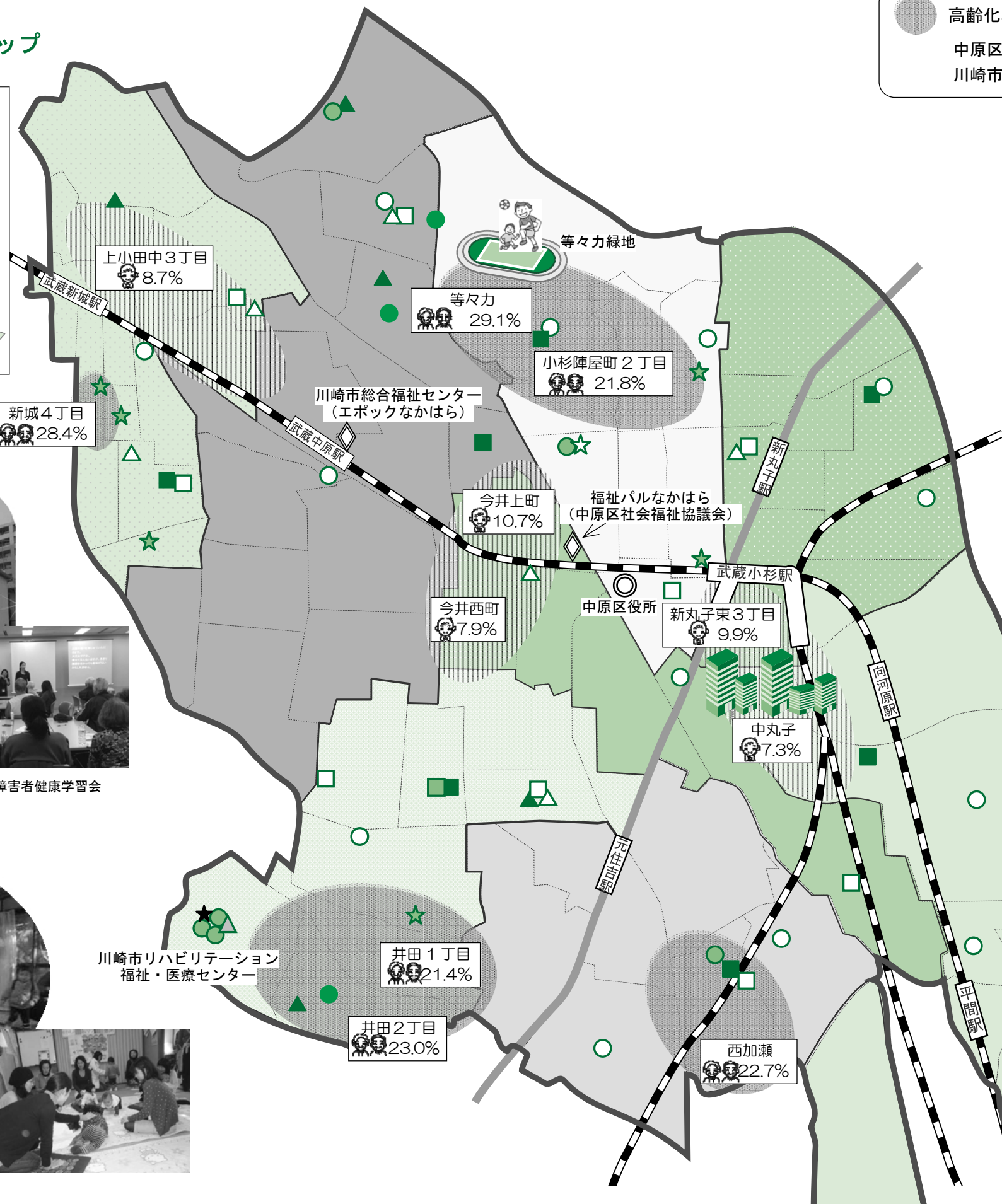
中原区民交流センター ボランティア等登録数		
活動分野	団体数	人数
健康・福祉	43	3,594
子育て	14	321

資料：中原区地域振興課（平成22年12月1日現在）

(3) 中原区地域福祉マップ



民生委員児童委員協議会



● 高齢化率 21%以上の地域 0～4歳児比率 7%以上の地域

中原区 高齢化率 14.0% 中原区 0～4歳児比率 5.1%

川崎市 高齢化率 16.6% 川崎市 0～4歳児比率 4.8%

資料：川崎市町丁別年齢別人口(平成22年9月末)

子ども	○ 子育てサロン(開催場所)	14か所
	□ こども文化センター	10か所
	△ 子育て支援センター	7か所
高齢者	● サロン・ミニデイ	4か所
	■ いこいの家	7か所
	▲ 地域包括支援センター	6か所
障害者	★ いきいきセンター	1か所
	☆ 中部身体障害者福祉会館	1か所
	● 障害者生活支援センター	7か所
	■ 聴覚障害者情報文化センター	1か所
	△ 中部地域療育センター	1か所
	☆ 地域活動支援センター	6か所

資料：中原区子育て情報ガイドブック、かわさき生活ガイド(2010年度)、中原区地域保健福祉課



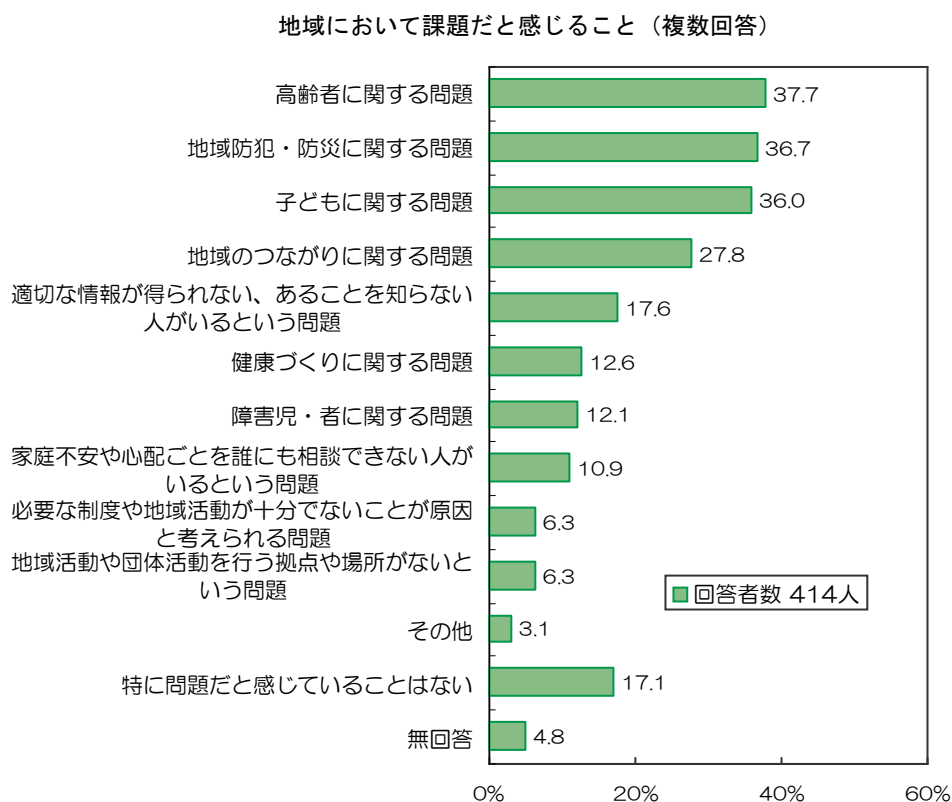
2 区民からみた中原区地域福祉

(1) 地域福祉実態調査からの現状

川崎市では地域福祉の実態把握を目的とし、平成22年2～3月に市民を対象とした「地域の生活課題に関する調査」と、福祉活動団体を対象とした「地域福祉活動に関する調査」及びヒアリングを実施しました。そのうち、中原区の結果として次のような内容が報告されています。

① 地域で問題と感じていること

地域において課題だと感じることについての質問では、「高齢者に関する問題」が最も多く、次いで、「地域防犯・防災に関する問題」、「子どもに関する問題」が多くなっています。



② 地域住民同士の交流について

日ごろから近所づきあいをしている人は、86.1%です。そのうち、「家族のように親しくつきあっている」が1.4%、「家に行き来したり親しく話をする」が9.4%、「ときどき話をする程度」が29.2%、「あいさつをする程度」が46.1%となっています。一方、ほとんどつきあいのない人が12.8%となっています。

また、地域との交流の必要性を感じている人は60.1%、困ったときの助け合いは必要だが、日ごろの交流はしたくないという人が29.2%です。

③ 地域の助け合いについて

助け合いができる地域の範囲としてごく身近な範囲をあげる人が多く、町内会・自治会程度とした人は40.6%、隣近所程度とした人は38.4%となっています。

地域の支え合いとして自分自身ができること、また、日常生活が不自由になったときに手助けしてほしいことについての質問では、ともに、「安否確認の声かけ、見守り」が最も多く、次いで「災害時の手助け」があがっています（表1）。

【表1】

地域の支え合いとして自分自身ができること（複数回答・上位4項目）		困った時に地域の人に手助けしてほしいこと（複数回答・上位4項目）	
安否確認の見守り・声かけ	69.3%	安否確認の見守り・声かけ	55.8%
災害時の手助け	42.3%	災害時の手助け	46.6%
ちょっとした買い物	33.6%	炊事・洗濯・掃除などの家事	28.7%
世間話の相手	22.5%	ちょっとした買い物	22.7%

④ 地域活動やボランティア活動について

地域活動やボランティア活動に参加したことがある人は42.1%となっています。活動に参加したことがある人の活動に参加した動機やきっかけは、「自分のために必要だから」、「人の役に立ちたいから」、「友人・知人に誘われたから」が上位を占めています。

ボランティア活動に参加したことがない人は43%でしたが、その理由としては、「忙しく時間がない」、「きっかけがつかめない」、「身近に活動グループや仲間がない」等が上位となっています（表2）。また、条件が整えば活動に参加したいと考えている人が11.8%となっています。

【表2】

地域活動に参加した動機やきっかけ（複数回答・上位3項目）		活動に参加したことがない理由（複数回答・上位3項目）	
自分のために必要だから	39.7%	忙しく時間がない	56.7%
人の役に立ちたいから	23.6%	きっかけがつかめない	30.3%
友人・知人に誘われたから	21.3%	身近に活動グループや仲間がない	29.2%

実際に活動をしている団体が困っていることについての質問では、「新たなスタッフ確保ができない」、「スタッフの高齢化」、「リーダー的人材の不足」、「活動資金の問題」が上位にあがっています。

⑤ 地域福祉推進について

地域福祉を推進するために、行政や区民が取り組むべきこととして、表3のような内容が主にあがっています。

【表3】

行政に取り組んでほしいこと（複数回答・上位5項目）		区民が取り組むべきこと（複数回答・上位5項目）	
情報提供・相談の場づくり	61.6%	住民同士の助け合いの意識の向上	47.1%
福祉サービスの評価や内容の情報開示	43.5%	情報が集まる場をつくる	39.9%
サービスが利用できない、サービスへ結び付かない人への対応	40.6%	ボランティアや地域活動ができる人を増やす	33.6%
課題・ニーズの把握	34.8%	身近に相談できる人を増やす	30.7%
地域福祉を担う人材の育成	29.7%	話合いの機会をつくる	28.5%

(2) 民生委員児童委員協議会との意見交換会からの現状

中原区では、ワークショップや、平成21年11月～平成22年2月に区内8地区の民生委員児童委員協議会との意見交換会を開催しました。

【意見のまとめ】

- 1) 子どものこと
 - ▶「地域」が社会のルールを伝える機会が減っている。
- 2) 高齢者のこと
 - ▶高齢者世帯、単身高齢者世帯が増加し、生活実態の把握が難しくなってきた。
 - ▶老人会等の地域活動へ参加する高齢者が減少している。
- 3) 町会、地域活動
 - ▶参加者が固定化している。
 - ▶活動に参加しない人が増えている。災害時などに不安がある。
 - ▶活動の担い手が不足（役員任期の長期化、高齢化）し、今後の活動継続に不安がある。
 - ▶個人情報保護の問題があり、活動がしにくい。
- 4) 場所
 - ▶気軽に集まれる施設や場所が少ない。
- 5) 民生委員の役割
 - ▶どこまで踏み込んでかかわっていいのかわからない。
 - ▶民生委員だけで、地域を見守るのは大変。
 - ▶福祉制度や行政の仕組みがわかりにくい。
- 6) 地域とのつながりについて
 - ▶地域にいる人の顔がわかることで、安心感につながる。
 - ▶困った時に、相談や助け合いができる。
 - ▶あいさつや声かけを通して、顔見知りになることが大切。
 - ▶地域の団結力につながる。



問題解決のためのアイデアや意見

- *わかりやすく興味がわくような情報発信ができないだろうか。
- *人とのつながりを持ちながら、自分自身が元気であることが大事！
- *災害時の助け合いの仕組みなど地域全体で見守る体制づくりが必要。
- *日ごろの生活でのあいさつや声かけを通して、隣近所や子どもと顔見知りになろう。
- *身近で集まれる仲間づくりの場が必要。
- *実際に活動に結びつくようなボランティアの育成のあり方と、活動継続への支援。
- *民生委員・町会・行政の連携強化と、活動のPR。

3

第2期計画の取組（平成20年度～平成22年度）

第2期中原区地域福祉計画では、中原区で暮らすすべての人々が、互いの違いを認め合い、健やかで、安心して、自立した生活が送れるように、区民が必要とする情報の提供や橋わたしによる、活力とうるおいのある支え合える地域づくりをめざし、平成20年度からの3年間で以下の取組を行いました。

基本目標① 福祉活動やボランティア活動の機会をつくる

区内の公共施設等の活用については、市民団体の活動支援をするため区民交流センターなどの場を提供しました。また、地域コミュニティの活性化を目的に、商店街でにぎわい物産展などのモデル事業を実施しました。

区民や区内の民間企業等への普及啓発については、福祉について区民が考えるきっかけづくり、地域福祉の普及啓発、また、情報交換の場をつくりました。また、まちなか講座や地域課題を考えるワークショップを通して、区内で働く人たちへのボランティア活動や地域活動等を紹介する機会を設けました。

援護を必要とする区民のニーズを理解し合える機会については、発達上見守りの必要のある子どもの親を対象としたセミナーや講習会を開催しました。また、支援の必要な子と親のための交流会や、高齢者・障害者を理解するための普及啓発講座などを開催するなど、様々な機会を通して、地域福祉の普及啓発に努めました。

基本目標② 福祉活動やボランティア活動のいっそうの活性化・充実を図る

各団体との連携を深めるため、ネットワーク会議や推進検討会議・交流会・イベント等を通して、区民・関係機関・行政で課題の共有を行いました。また、子育て・障害・高齢の諸分野において、当事者グループの育成と支援者グループの活動支援を行いました。

基本目標③ 区民、福祉活動団体、行政等が情報を共有できるしくみをつくる

地域福祉に関する情報提供体制を充実させるため、中原区ホームページ（こども、高齢者、区民交流サイト）の整備や子ネット通信、介護予防マップ等の作成を行いました。また、地域住民と連携し、『脳・体はつらつ倶楽部』の拠点づくりを行いました。その他、福祉健康まつりを通して、福祉活動団体間の交流・連携を図るとともに、区民に向けて各団体の情報を発信しました。

基本目標④ 地域におけるネットワークづくりを推進する

武蔵小杉駅周辺地域等に向けて、リーフレットの配布や説明会の実施などを通して地域福祉についての情報発信を行い、地域福祉の普及・啓発に努めました。

また、住民組織等との連携を深めるための具体的な取組として、関係機関の協力の下、支援が必要な子どもや高齢者の現状把握、虐待防止や見守りのための活動を行いました。

その他、地域包括ケア連絡会議を通して、地域包括支援センターや地域住民との連携の機会を設けました。また、障害者自立支援協議会において、障害者の地域における自立生活を支援するため研修や事例検討を行いました。子どもに関する相談窓口として、庁内外の関係機関と連携し、区役所内の子ども支援体制の強化に努めました。